

商工会議所LOBO（早期景気観測）

-2021年5月調査結果-

調査概要

- 調査期間 2021年5月14日～5月31日
- 調査対象 200社
- 回答企業 130社
- 回収率 65.0%

※DI値（景気判断指数）について

DI値は、売上・採算・業況などの各項目についての判断の状況を表す。

ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

なお、従業員の項目については、DI値ゼロを基準として、プラス値は人員不足感を表し、マイナス値は人員過剰感を表している。

DI値 = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)

業況・採算：(好転) - (悪化) / 売上：(増加) - (減少) / 仕入単価：(下落) - (上昇)

販売単価：(上昇) - (下落) / 従業員：(不足) - (過剰)

旭川市概況

※全産業の5月の状況を見ると業況DIは、前月より7.2ポイント悪化の▲27.7となった。

2017年9月以来45ヶ月連続でマイナス水準を推移している。

※向こう3か月の全産業における、先行き見通し業況DIは▲30.8、当月と比べ3.1ポイントの悪化が見込まれる。

旭川市全産業DI値（前年同月比）の推移

	2020年 12月	2021年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 2021年6月～ 2021年8月
業況	▲41.0	▲46.0	▲47.6	▲28.8	▲20.5	▲27.7	▲30.8
売上	▲45.1	▲44.5	▲48.4	▲26.4	▲4.1	▲10.8	▲23.1
採算	▲37.7	▲43.7	▲43.5	▲31.2	▲17.2	▲22.3	▲28.5
仕入単価	▲14.8	▲16.6	▲25.0	▲34.4	▲36.9	▲36.2	▲45.4
販売単価	▲10.7	▲16.7	▲17.0	▲6.4	0.8	0.0	2.3
従業員	13.9	8.7	14.5	12.0	18.0	19.2	24.6
資金繰り	▲19.7	▲19.0	▲23.4	▲20.0	▲10.7	▲15.4	▲20.0

旭川市産業別業況DI値（前年同月比）の推移

	2020年 12月	2021年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 2021年6月～ 2021年8月
建設	▲22.2	▲22.2	▲16.7	▲23.4	▲17.3	▲28.5	▲25.0
製造	▲38.7	▲45.2	▲50.0	▲32.1	▲24.1	▲13.4	▲26.7
卸売	▲25.9	▲35.7	▲39.3	▲17.9	▲15.4	▲27.6	▲31.0
小売	▲61.1	▲58.8	▲52.9	▲50.0	▲20.0	▲35.0	▲35.0
サービス	▲73.7	▲78.3	▲80.0	▲30.5	▲26.1	▲39.1	▲39.2

今月のトピックス（業界の声・経営上の問題点）

建設業	<ul style="list-style-type: none"> ・技術職員の高齢化と人材不足、若手技術者の育成。旭川の建設業界については、公共事業は例年並み。民間建築においてはコロナの影響もあって見送りがあり減少している。（総合工事） ・回復傾向ではあるが先月に引き続き一般戸建ての工事が昨年と比べ減少している。この先も減少傾向にならないか懸念している。全体の業績は、他の定例的な業務があり、現在のところ悪化は無いが先行きの不安は残る。人材については充足しているが、将来を見据えた若い人材の確保を積極的に進めたい。（設備その他） ・アメリカにおいて住宅産業が好調に推移していることから、東南アジアからの輸入材が大きく値上がりしており、今後収益を圧迫する懸念が出ている。（建築）
製造業	<ul style="list-style-type: none"> ・今月は昨年中止だった物産展が開催されたものの、お客様同士の密を避けるため試飲、試食ができず思っていたほどの売上増はない。好転したのも一時的で北海道を含めた 10 都道府県の緊急事態宣言が延長されることも考えると採算や資金繰りに影響がでることも懸念される。（食料品） ・緊急事態宣言を受けて各種イベントの中止及び自粛により、印刷物が削減状態にある。流通関係においても特売チラシが自粛気味である。（印刷・出版） ・向こう 3 ヶ月は受注増加。秋口以降の受注は不透明で伝染病収束の状況により投資見送りムードが広がると心配。（金属窯業等）
卸売業	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度は新型コロナウイルスによる大きな特需があったが、今年度は昨年ほどの特需はないとみていて、その分の目減りと考えられる。（繊維・衣服等） ・コロナによる緊急事態宣言により、大幅な売上減少又延長の可能性により、先行き悪化。（飲食料品） ・灯油の仕入価格は上昇したが先月より上げ下げを繰り返しており、今後しばらくは現状のまま推移すると思われる。（その他） ・現状では売上は不変であるが今後コロナの影響が出ると見られている。毎月何かしら資材の単価が上がっているが、販売価格を上げるのに数ヶ月はかかるため、その間採算が厳しい（利益確保が前年より良くない）。（機械鋼材）
小売業	<ul style="list-style-type: none"> ・5月16日の緊急事態宣言発令により来店客が少ない中、更に追い討ちをかけられ売上が大変厳しい。資金繰りが苦しくなる。どのように対策を取っていけばよいのかまったくわからない。（衣服見回品） ・感染者の増加、飲食店の酒類提供の禁止により更に売上の落ち込みが激しい。（食料品） ・新型コロナによる外出自粛に伴い、訪問できないお客様もあり、売上につながらない。（その他） ・オークション仕入価格上昇。全国チェーン大手と競合。利幅縮小、採算悪化の負の循環から抜け出せない。コロナの影響もあって店頭への来客数減少（個人客の減少が大きい）企業向けも業績悪化から買い換えの手控えが多い。（自動車）
サービス業	<ul style="list-style-type: none"> ・前月に引き続き悪化。旅行客減少により特に海外の旅行者 0 に等しい。ホテル、リネン類、寝具前年比の半分以下。経営は非常に厳しい。（理美容・クリーニング） ・対前年と比較すれば好転の見通しだが、感染状況により大会の中止や宿泊応援事業が停止となると前年並みに厳しい状況となる。（ホテル・旅館） ・非常事態宣言下、来客数減少で経営が非常に厳しい。（飲食） ・5月15日の緊急事態宣言の発出により都市間、一般路線ともに大幅な利用減が想定され、利用の回復には時間を要すると思われる。また期間が延長される等収束が長引いた場合、経営に大きな影響が出ることを危惧している。（運送）

旭川市の産業別概況

産業	概況
建設業	<p>売上 DI11.2 ポイント悪化、採算 DI14.9 ポイント悪化、仕入単価 DI1.9 ポイント改善、販売単価 DI6.7 ポイント改善、資金 DI17.5 ポイント悪化、従業員 DI9.7 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 11.2 ポイント悪化となった。業種別では、総合工事横ばい、設備・その他 13 ポイント、建築業 33 ポイント悪化となった。緊急事態宣言発出による消費者マインドの低下を要因とする一般個人住宅新築需要の減退及び民間発注の減速感による受注量の減少が懸念材料。完全な感染防止策がないことが事業継続していく上での課題。「感染症 BCP」の見直しも含め、全社網羅的に事業継続可能な体制を引き続き構築・維持していくとの声も寄せられている。</p>
製造業	<p>売上 DI26.5 ポイント改善、採算 DI13.8 ポイント改善、仕入単価 DI1.3 ポイント改善、販売単価 DI0.3 ポイント悪化、資金 DI3.4 ポイント改善、従業員 DI13.3 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 10.7 ポイント改善となったが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、家具・木材 11 ポイント悪化、食料品 14 ポイント、印刷・出版 27 ポイント、金属窯業他 10 ポイント改善となった。現状は昨年比でいうと好転だが、この度の緊急事態宣言及び対象地域拡大による影響は今後出てくると予測する。キャリア採用の求人を経続的にやっているが採用につながるケースが少なく苦慮しているとの声も寄せられている。</p>
卸売業	<p>売上 DI17.6 ポイント悪化、採算 DI1.6 ポイント改善、仕入単価 DI0.5 ポイント改善、販売単価 DI8.0 ポイント悪化、資金 DI8.5 ポイント改善、従業員 DI1.6 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 12.2 ポイント悪化となった。業種別では、食料品 38 ポイント改善、繊維・衣服等 65 ポイント、機械鋼材 17 ポイント、その他 28 ポイント悪化となった。住宅産業は今後少子高齢化、ストック住宅の増加により従来のように右肩上がりの着工数が望めないのに加え、今回のコロナ禍で先行きが不透明（2 極化が進むアメリカの住宅産業の活性化により）2×4 材の高騰が危惧されるとの声も寄せられている。</p>
小売業	<p>売上 DI6.7 ポイント悪化、採算 DI18.3 ポイント悪化、仕入単価 DI10.0 ポイント悪化、販売単価 DI11.6 ポイント改善、資金 DI11.7 ポイント悪化、従業員 DI5.0 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 15.0 ポイント悪化となった。業種別では、食料品 8 ポイント改善、衣料品横ばい、その他 29 ポイント、自動車 35 ポイント悪化となった。昨年に引き続き緊急事態宣言が発令されたことで、先行きは不透明のまま。アフターコロナの観光客増に伴い業績も改善されることを期待していたが、残念ながら今年も期待できない。ワクチン接種により早く収束してくれることを願うばかりとの声も寄せられている。</p>
サービス業	<p>売上 DI30.5 ポイント悪化、採算 DI13.0 ポイント悪化、仕入単価 DI4.3 ポイント改善、販売単価 DI13.1 ポイント悪化、資金 DI8.7 ポイント悪化、従業員 DI8.7 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 13.0 ポイント悪化となった。業種別では、整備業 25 ポイント改善、理美容・クリーニング、運送横ばい、ホテル・旅館 17 ポイント、その他 15 ポイント、飲食 27 ポイント悪化となった。今のところ昨年よりは上であるが、まだまだ一昨年ベースにはほど遠い。コロナ関連で市中の情勢によっては、再び昨年の状況になる恐れもあり非常に不安との声も寄せられている。</p>